

橋梁流失防止対策により、交通機能を確保する

【対策】55 渡河部の橋梁や河川に隣接する道路構造物の流失防止対策

対策概要：令和元年東日本台風では、大雨の影響で広い範囲で河川の氾濫や浸水被害が発生し、河川に隣接する道路が被災した。令和2年7月豪雨では、梅雨前線の停滞による記録的な大雨により、河川の氾濫および橋梁の流失、河川隣接区間の道路流失等が発生した。通行止めが長期化する渡河部の橋梁流失や河川隣接区間の道路流失等の災害リスクに対し、橋梁・道路の洗掘・流失対策や橋梁の架け替え等を推進する。

府省庁名：国土交通省

【事例】国道3号(鹿児島県いちき串木野市)

■ 実施主体：国土交通省 九州地方整備局 鹿児島国道事務所

■ 実施場所：鹿児島県いちき串木野市

■ 事業概要：国道3号下井出橋は過去の河川増水により、最大1.1mの洗掘が確認され、橋梁流失の危険性が高い状況にあったため、橋脚基礎部の根固め工等を実施。

■ 事業費：0.6億円
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.6億円)

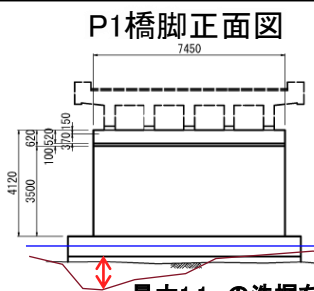
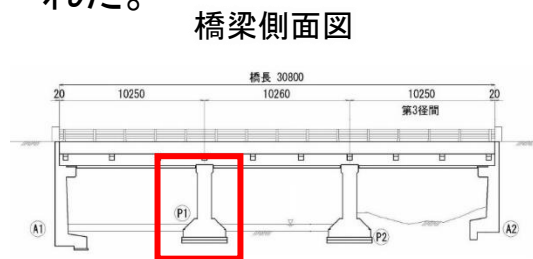
■ 効果：5か年加速化対策として根固め工等による流失防止対策を実施したことにより、令和4年台風14号等のこれまでの降雨による橋梁流失は発生しておらず、安全な通行が確保された。



最大1.1mの洗掘を確認



5か年加速化対策による流失防止対策



橋梁名	： 下井手橋
橋長	： 30.8m
橋種	： RC3径間連続T桁橋
完成年	： 1934年

最大1.1mの洗掘を確認 ⇨ 流失防止対策として根固め工を実施



工事完成後の状況